

ファザー・オブ・ザ・イヤー inみえ

大賞

“我が家の育児男子”部門

津市 ^{ふくなが} 福永 ^{よしかず} 喜一 さん

育児対象 子ども(1歳、2歳)



「生き生きと働いている君が好きだ。結婚しても、子どもが生まれても、お互い仕事を続けて、家事も分担してやっていこう」 そう言ってプロポーズした妻との間に、一昨年と昨年、続けて男の子が授かり、現在親子4人で生活しています。今年の4月に仕事の関係で熊本県から三重県に転居し、妻の転職にあわせて第二子のために5月から3か月間育児休業を取得、8月から職場復帰しました。

毎日バタバタ、七転び八起きで息をつく間もないですが、「出産とおっぱい以外は男でもできる」をモットーに、日々それぞれの職場の方々に助けていただきながら、楽しく子どもを育てています。その中で、私が「これやってよかったな」と思っている次のことを伝えさせてください。

(1) 家事・育児の作業のリスト化

総作業量、分担比率をお互い確認し、夫婦間の認識のズレを修正する。平日の私の担当作業は約半分。主要なもので、子どもの起床介助⇒朝食準備・介助⇒朝掃除⇒保育園送・迎⇒洗濯取り込み⇒夕食介助⇒入浴介助⇒寝かしつけ⇒洗濯干し⇒登園準備 といった具合です。

(2) ゴール(合格水準)の確認

仕事でも家事でも、求められているモノの方向感と水準を、作業開始前に上司(家庭ではパートナー)に確認・相談する。(ムラや手戻り防止効果があります)

(3) 外部に協力を求め、相談する

自分の中で、「したいこと」「できること」「条件

が合えばできること」「できないこと」を明確にして、職場や家族間で補完措置を相談する。特に職場では「できないこと」は言いにくいですが、生産性の維持・向上・ロス防止のためには、最も相談し合意しておくべき事項だと思います。

(4) 家族だけでなく、市町が行っているファミリーサポートセンターや民間ベビーシッター等を頼る。

自分では対応できなかつたり、一時的に自分の時間を確保したい時に頼れる先があれば、たとえ活用頻度が少なくとも気持ちが楽になります。特にファミリーサポートセンターはオススメです。

最後となりましたが、家内安全・商売繁盛につながるイクメン・イクボスのカギは、「母親なんだから…、男なんだから…」といった古い先入観ではなく、ありのままに「自分や相手の適正と状況を見る」ことに尽きると思います。

👍 審査員共感!ポイント

- 家事・育児のリスト化など、女性には思いつかない、男性的な考え方がとても新鮮!
- ファミリーサポートセンターを利用するなど、賢い子育てを実践されているところが良い! ママの負担軽減にもつながる。
- 熊本から三重に来られて、まわりに誰も頼れる人がいない中で、第二子が生まれても夫婦共働きでいられるのは、パパの育児参画があってこそ!